「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という氣持ちでお届けしています。

りゅうま伝

6号
2020年5月24日
高野竜馬

「可也山（かやさん）」

毎朝3時46分に目覚ましは鳴るものの、目が覚めたらパッと起き上がる朝起きの実践は、だいたい一勝一敗、五分のくせに人の寝坊は氣にいらず、朝7時になっても起きてこない女房子どもの前で携帯片手にラジオ体操第一をユーチューブで大音量再生する迷惑オヤジの高野です。

さて、自粛生活もまもなく終わりを迎えようとし、これからの世の中の動向が氣になるところですね。皆様はコロナの自粛生活、いかがでしたでしょうか？

冒頭のような迷域行為をするのも父親として、こんな時こそ規則正しい生活が必要だとの思いからです。不要不急の外出は控えるべきものの適度な運動の為に、散歩くらいはすべきと考え、基本毎朝、子ども達と30分程度の散歩をしていました。

そんな中、何をどう見間違えたのか、自宅近くの可也山（365メートル）の情報を入手。40分で登って降りてこれると勘違いした私。その程度なら時間によっては誰とも会わないだろうからと朝の散歩替わりに登ることに。

朝7時 登山開始。予定では8時には駐車場に戻ってくるつもりでした。ところが30分たっても山頂は見えてきません。（汗）それどころか30分たっても歩いてきた距離と山頂までの距離が合わないのです。私は慌てて携帯で「可也山」を検索。間違いに氣づくも、父親としての威厳を守るために真実を言えません。（笑）

家族の冷たい視線と疑問の声を背中に受けて登ること、一時間半（全行程三時間）。無事登頂（笑）。山には登ったけれど父親の威厳は失墜しました。

ただ、子ども達は山頂で私が握ったおにぎりを頬ばり、展望所から広がる糸島の海と山に感動したようで、次はあの山、あの島に行きたいと言い出しました。

我家は緊急事態宣言直前に初めて登った立石山に子ども達が感動して登山部を作ることに。山登りを嫌がる家内を部長に据えていたのですが活動2回目にして早速退部届が……。子ども達の猛説得によりなんとか食い止めたものの帰り道、車から見る糸島富士、可也山を見ながら家内がボソッと……。

「あんな大きい山、40分で登って降りてこれる訳ないやん」

返す言葉もありません。

でも確信犯ではありません。ホント勘違いです。登山に要する時間、片道1時間40分の「片道1時間」部分を見落していたとは、とても言えませんでした。

そして、読者の方も、もしかしたらこの時分にそんなことをしてと不謹慎に思われた方もいらっしゃることでしょう。申し訳ございません。

さて、翌日、いつものように、ラジオ体操の音楽で子ども達を叩き起こし、近所の田んぼ道を散歩していると目の前に大きく広がる可也山が。

「見てごらん。あれが昨日登った可也山だよ」

「わぁ〜〜〜っ！スゴイ!!」

子ども達は誇らしげに歓声を上げました。僕はちょっとだけ良いお父さんになった氣がしました。

たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
090-3407-2123
https://www.takanozaikei.com メール fp.takano@gmail.com